

# 世界遺産登録に向けて

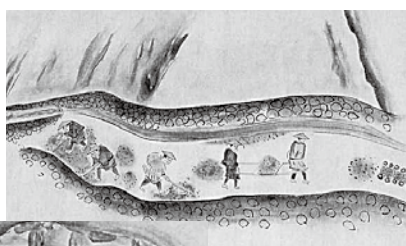
## 西三川砂金山(15) — 「高下」「敷穿」 —

「押穿」を終えたら、「水戸通り」に流れ込む水を止めます。そして、川底に残った土砂を「小ぜり」という道具で削り取り、水戸下へ集めます。このとき、川底のでこぼこを削り平らにするので、この作業を「高下」といいます。そして、水戸下の両縁に「耳木」というものを並べ、「ねこた」を17枚から18枚ほど敷き並べ、集めた土砂を「小流し」といって、ゆるやかに水をかけながら流します。土砂を流し切ると水を止めて、1枚目の「頭ねこた」を取り上げます。次の「ねこた」に溜まった砂金を含んだ土砂を川中で流しながら、1枚ずつ次々と「ねこた」に移して最後の「尻ねこた」を集め、「頭ねこた」の土砂と一緒に汰板にかけます。

また、このように山を切り崩して砂金を採る方法のほかに、坑道を掘る「敷穿」という方法があります。これは、毎日6人ずつの穿子がツルハシなどで地中を掘り進みます。砂金は、大体大きな石組みの間の土にあるので、大石を掘り出して土をかきとり、石は坑内や坑口の補強に使います。小石についた土も払い落と

し、硬い土の塊は坑内で打ち砕いて外へ持ち出し、「釜の口」といわれる坑道の出口に集めます。そして、この日のうちに同じように「小流し」にかけてから、砂金を採ります。集めた砂金は、例によって、金山役が検査をして、金児にも改めさせ、封印をして保管します。

◆市役所世界遺産推進課（金井就業改善センター内） ☎63-5136



「高下」(上図)と「敷穿」(下図)「西三川砂金山稼方図」より(新潟県立歴史博物館蔵)

## 佐渡の車田植保存会が新潟県知事表彰を受賞しました

11月20日、国の重要無形民俗文化財「佐渡の車田植」を伝承する「佐渡の車田植保存会（会長 北村 佐市氏）」が、平成27年度新潟県知事表彰を受賞しました。

佐渡の車田植は、全国的にも希少な古代の田植習俗の現存例で、毎年5月中頃に同保存会によって執り行われています。

受賞おめでとうございます。



佐渡の車田植

## 羽生令吉さん(竹田)が新潟県教育委員会表彰を受賞しました

11月17日、佐渡市文化財保護審議会職務代理者の羽生令吉さんが、平成27年度の新潟県教育委員会表彰を

受賞しました。

今回の表彰は、旧真野町当時から現在まで文化財保護審議会委員の要職を歴任され、長年佐渡博物館学芸員としても考古調査に尽力された功績を称えるものです。

おめでとうございます。

## 文化財は地域の宝 文化財防災訓練を実施します

毎年1月26日は「文化財防火デー」です。この日は、昭和24年1月26日に、法隆寺金堂が炎上し、壁画が焼失したことを受けて制定されました。毎年、この日を中心として、全国的に文化財防火運動を展開し、文化財愛護に関する意識の高揚を図っています。

佐渡市でも、毎年1月に文化財防災訓練を行っていますので、皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

訓練では、実際にサイレンを鳴らしますので、火災とお間違えのないようお願いいたします。

日時 1月24日(日)

午前10時～11時

場所 相川郷土博物館  
(相川坂下町20)

お問い合わせ

市役所世界遺産推進課文化財室  
文化財保護係

☎63-3195